

2022年12月30日(金)

老球の細道708号

12月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

北京冬季五輪でスタートした2022年。悪夢のロシアウクライナ侵攻によって残り少ない平和な人生に終わりを告げられたかのようだった。新型コロナは相変わらず続く。高齢者にとっては血圧の高さより気になる物価高の波も押し寄せて来た。そしてオチは私自身が新型コロナの訪問を受けたことである。今年ももうすぐ終わる。来年は戦争も終わり、コロナも終わり、平和と健康、そしてバスケットボールを思う存分にしたい。良いお年を。

1・テレビから

◆「怖いのは、挑戦しないこと」〈NHK・『プロフェッショナル・仕事の流儀』プロボクサー・井上尚弥〉：挑戦は若者の特権ではない。人は挑戦と共に若く、現状維持と共に老いる。バスケットへの挑戦、自分への挑戦、社会への挑戦、人生三つの挑戦と共に生きるべし。

2・読書から

◆「ほれるから相場があり、自分の発展がある。しつこく掛け合っていると、いつか相手が売ってくれる。いつか、相手がうんという」〈井伏鱒二著『珍品堂主人』河出書房〉：「愛することがファイトになり、知恵も出る」とわが師新井春生氏も言っていた。好きになり、愛することから何事もスタートしたい。高山巖も歌っていた ♪愛は炎のように ♪

◆「会社の命運を握るだろうと思われる大きな決定というのは、意外と簡単に決まる“バレー部の隣では必ずバスケ部が練習している」という素朴な思考が人を動かす。人生、まんざら悪くないなあ」〈月刊バスケットボール：島本和彦のこんな話知っている〉：月刊バスケットボール創刊50周年を迎えた。私は創刊号からの読者である。昭和のバスケット文化を支えたのは月刊バスケットボールと安藤孝雄(通称あんたか)氏のバスケットグッズであった。

3・新聞、パンフレット等から

◆「私は人通りが少ない方の道を選んだ。そして、それがあとあと大きな違いを生んだ」〈朝日：折々のことば：ロバート・フロスト〉：人生は選択の連続。分かれ道での原理原則は？

◆「プロ野球阪神が来季のスローガンを“A・R・E”と決めた。岡田彰布監督は選手らが意識過ぎないように、優勝のことを“アレ”と呼ぶ。それがヒントになった」〈朝日：ハーフタイム〉：卓越したチームを創るにはスローガンが大切。明確な目標(Aim)、尊敬(Respect)、更にパワーアップ(Empower)。「エー・アール・イー」より「アレ(優勝)」だとか。

◆「絶えず自分に対して“私は”知らない」と繰り返していかなければなりません」〈朝日：折々のことば：ウィスヴァ・シンボルスカ〉：問題が一つ解決すると次に新たな疑問がわくとポーランドの女性詩人。自己に慢心しない。わかっていない自分を楽しむプロセスが面白い。

◆「年齢を重ねて、別の視点から物事を見るようになった。今まで気づかなかった小さなことを大切にしている。全ての経験を楽しむことを第一にしている」〈朝日：サッカーW杯2022〉：神の子2世メッシュの初戦を控えたコメント。向き合い方で人は変わる。